



図書館サポーターズだより

明日に吹く風



いよいよ“読書の秋”の季節がやってきましたね。今の季節に最適な場所「図書館」で、本を読みながら一息ついてみませんか？今月も、図書館サポーターズおススメの本を紹介します！

～図書館サポーター推薦図書～

『保健室から見える本音が言えない子どもたち』

桑原 朱美 著 (371.42 || Ku95)



寄り添うってどういうことだろう。私は人の様々な悩みに触れるときにこう考えてしまいます。その人だけに耳触りの良い言葉を並べてあなたは悪くないよと言うことは簡単だけど、その言葉は問題を先送りしているだけで、その人の為になっていないのではと思うことが多くありました。そのような中、この本を読んでとてもすっきりした自分がいました。全肯定するわけでもなく、アドバイスをするわけでもなく、人の本音を引き出してどう解決するか一緒に考えていく。その人が今後、自分で解決し選択できるようにするための寄り添い方は、私の心のもやもやをすべて解決してくれました。この本は、養護教諭が生徒と関わる場面を書いています。学校現場だけでなく、家庭、仕事、友人関係などでも役立つ一冊です。

(A・M)

『その本は』

又吉直樹, ヨシタケシンスケ 著

(913.6 || Ma71)



ある王国の王様は、もう年寄りでほとんど目が見えません。大好きな本を読めなくなってしまった王様は、2人の男を城に呼び、「世界中をまわって『めずらしい本』についての話を教えてほしい」と命令します。この本は、1年間旅した2人の男が、いろんな人から聞いたいろんな本の話、一晩ずつ、かわりばんこに話す物語です。思わず笑ってしまう話や考えさせられる話、感動する話、頭に「？」が浮かぶ話など、たくさんのストーリーがあって飽きない内容で、ページをめくるのが楽しくなります。1つ1つの話に意味や価値があって、それらを確かめるために何度も読み返したくなる1冊です。

2人の男の予想外の結末にも大注目！
ぜひ、手に取って読んでみてください！

(A・T)



『お味噌知る。』

土井善晴, 土井光 著

(596.21 || D83)



「料理して食べることが大切ですから、味噌汁とご飯でいいですから、自分で料理して、自分で自分を守って、自分を育ててください。」
皆さんはお味噌汁食べていますか？ いつも同じ具のローテーションになったりしませんか？ 食事はおかずばかり目が行きがちですが、ほっとする安心感を得られるのは、右側にいる一杯です。本書は一人暮らしを支える自立の味噌汁、家族の味噌汁、組み合わせる味噌汁、季節の味噌汁、スペシャルな味噌汁&味噌料理の5章構成になっています。お味噌汁がおかずにもなる、その一品だけでいい、出汁もいらない、そういうハードルの低さが魅力だと気が付きます。
ぜひ、自分のお気に入りの一杯を見つけてください。

(S・H)

